

誤配対応に関する一案

永江 学 熊谷憲夫

聖マリアンナ医科大学 医学情報センター

はじめに

前回の本研究会において聖医大配架方式を発表した。今回、聖医大配架分類を5色のラベルを用いて色分けして配架を行った。それにより利用者による誤配の減少と職員による誤配の発見に効果が得られた。また、職員による確認作業の軽減化も認められたので報告する。

また、平成21年3月30日と31日に本学初の開架図書蔵書点検と自動書庫（導入後約1年）蔵書点検を行ったので合わせて誤配、不明本に関しても報告する。

結果

10月1日より配架分類カラーラベル添付終了の12月10日と12月11日より3月31日までの誤配について検討した。開架図書数に対する誤配冊数と誤配率についてラベル貼付前と後に付いて見てみると、ラベル貼付前では平均0.22%であり、後では平均0.18%であった。返却図書数に対する誤配冊数と誤配率について同様にラベル貼付前後に付いて見てみると、ラベル貼付前では平均7.05%であり、後では平均6.54%であった。誤配に対して職員、夜間バイト者、利用者（推定）に分けてラベル貼付前後で見てみると、職員はラベル貼付前平均2.30%、後平均0.52%、夜間バイト者はラベル貼付前平均7.73%、後平均3.87%、利用者はラベル貼付前平均89.37%、後平均95.61%であった。誤配がどの様に配架されているかについて見てみると、ラベル貼付前では同一棚には平均59.90%、棚違いには平均40.1%、ラベル貼付後では同一棚には平均54.25%、棚違いには平均45.76%であった。

3月30-31日に行った開架図書蔵書点検では23252冊中139冊（0.60%）の不明本が確認された。当初不明本は180冊であったが、再確認の末41冊が確認された。

自動書庫では140409冊中36冊（0.026%）の不明本が確認された。当初不明本は60冊であったが、再確認の末24冊が確認された。

まとめ

開架図書に対して棚番号を貼付して聖医大配架分類で配架していた。しかし、医学知識に乏しい職員では従来のNLM分類番号での確認となり誤配発見が難しい状況であった。そこで、聖医大配架分類番号を五色ラベル貼付することにして配架したところ、誤配率の低下が認められた。また、本学では以前朝の30分程度で担当棚を職員全員で誤配確認を行っていたが、現在では、その業務時間は10分程度に短縮している。本学では医学書関連は五色ラベル貼付を行っているが、それ以外の図書は従来と同様に棚番号のみの貼付で十進分類および看護分類で配架されている。誤配と不明本は図書館内では別問題として扱われている。しかし、利用者側に立って考えると誤配であれ不明本であれ利用できないのであれば同じものである。本学では利用者の立場に立って、毎朝誤配確認の業務を行っている。そのための職員業務の軽減化を考えカラーラベル導入を行ったところ、効果が得られた。

自動書庫ではヒューマンエラーによる不明本発生が確認された。

蔵書点検では原簿などの不備が確認された。